



音色の文化を培ってきたブランドに ベヒシュタインの技が加わり さらに魅力的なピアノづくりを展開しています。

〈ベヒシュタイングループの名作、ツインマーマン〉

ツインマーマンは、1884年、ドイツ・ライプツヒに設立され、

20世紀初めにはヨーロッパで最も大きなピアノ製造メーカーの一つに成長しました。

一流と称されるピアノメーカーは、

常にそのブランド独特の響きを確立することを念頭において楽器製作にあたっています。

長い歴史の中で、特長ある構造を確立し、

抜群のバランス、変幻自在の音色を作り出したツインマーマンは、

1992年にベヒシュタイン社の手による新ブランドとして再登場しました。

その音色の秘密は、

ベヒシュタインの伝統で培われた構造の同一コンセプトと、選び抜かれた素材にあります。

それぞれのパーツに適した木材を厳選し、ベストの状態になるまでじっくりとシーズニングを行います。

これらの素材をベヒシュタイン同様の製造コンセプトで作る事により誕生する

輝かしく伸びやかな響き、心地よいタッチは、音楽学習にも最適で、

教育現場からも「音色そのものを学び、理解する」ための楽器として多大な支持を得て、

日々その評価を高めています。

本当に良いピアノに必要な要素、つまり魅力的なデザイン、

音色・技術の完全性を備えたツインマーマンは、

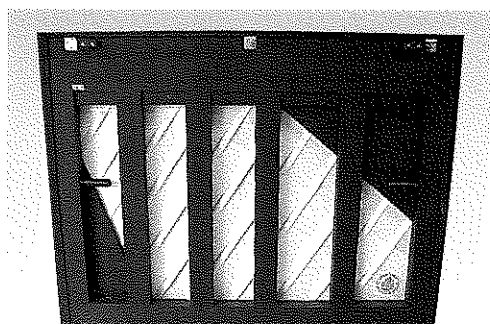
伝統あるベヒシュタイングループが贈る、価格と品質の名作です。

Zimmermann

Made by BECHSTEIN

品質を極めるための、
数々のこだわり。

● 〈響板〉 ピアノの裏側の写真A、Bを見ると、2台とも同じような形状をしていますね。



A C. BECHSTEIN

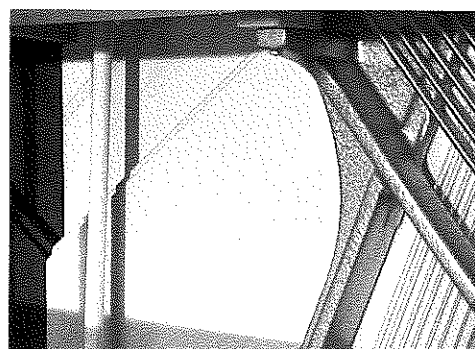


B Zimmermann

ツィンマーマンピアノは、ベヒシュタインピアノの設計を基に製作されています。ベヒシュタインの響きの特徴としてよく知られているのは、同時に弾いた音が濁らず1音1音が分離するため、旋律と伴奏部の違いがより明確に表現できる点です。その透明な響きを表現する一つの工夫が、ベヒシュタインの響板に特有な除響板(写真の黒く三角形になっている部分)と呼ばれる構造です。弦の振動は駒を伝わって響板に届き、その多くは駒に対して直角に響板に伝わります。そのため、駒に対して平行な2つの角の部分で乱反射が起こります。それを防ぐためにベヒシュタインが考えたのがその名の通り、響板の余分な残響を取り除く除響板です。よりクリアな響きを得るための、ベヒシュタイン独特のアイデアなのです。

除響板の構造

除響板は響板の角を三角形に切り、響板の素材とは異なる種類の針葉樹からなる三角形の板にブナのリムを取り付け、太鼓のリムのような役割を担わせます。この除響板を正確に取り付けるために、通常の響板製作よりも2工程余分に作業をしなければなりません。こうしたベヒシュタインの150年に及ぶ伝統の技術が、ツィンマーマンのピアノづくりにも採用されています。



前から見た除響板(左上角の三角にへこんだ部分)

Zimmermann

Made by BECHSTEIN



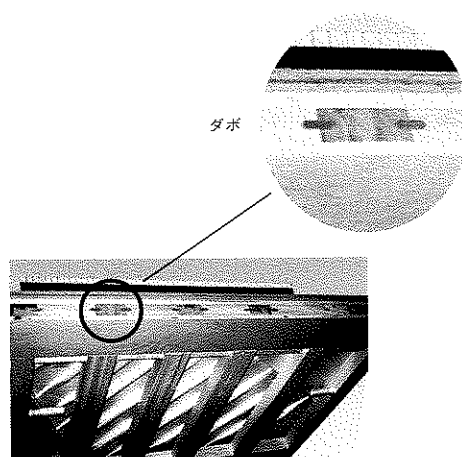
〈支柱〉



写真の縦の柱が支柱です。支柱の間隔は左右非対称で、高音側(左側)に偏っています。その理由としては、

- ①構造上の理由
- ②音響上の理由の2つを挙げることができます。

ダボ



支柱をダボで固定する事により、構造を堅牢にし、かつピアノ全体に弦の振動を効率よく伝搬させます。

構造上の理由

全ての弦をまっすぐ垂直に張ると、張力の中心は真ん中ということになりますが、現代のピアノでは、低音部をより豊かに響かせるために、低音弦を長くとり、斜めに張るので、張力の中心が高音側に寄ってきます。そのため、支柱を高音側に寄せることによって高い張力に耐えられるようにし、ピアノの構造を堅牢にしているのです。

音響上の理由

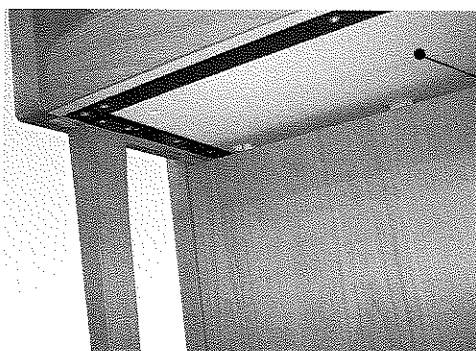
高い音(波長の短いもの)は質量の大きいものに、低い音(波長の長いもの)は質量の小さいものにそれぞれ響きやすい性質があります。この性質に着目したベヒシュタインでは、支柱を高音側に寄せ、高音側の質量を大きくすると同時に、低音側の質量を小さくし、より響かせる工夫をしています。

支柱の間隔が一定でなくなると、同じサイズの部品だけでは対応しきれず、ピアノを組み上げるために必要な部品の数が多くなってしまいます。能率を考えれば決して理想的とはいえませんが、よりよい響きのためには手間を惜しまないという姿勢でベヒシュタインはピアノを製作しています。

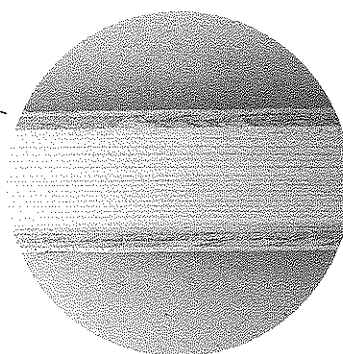
〈棚板・鉄骨〉

棚 板

右下の写真はツインマーマンの棚板の切断面の拡大図です。普段ピアノを演奏する際には見ることもない所ですが、ただの支えとしてだけではなく、響き・タッチに大きな影響を与える重要な部分です。ベヒシュタイングループでは、このような見えないところにもこだわりを持ち、材料に妥協することなく、響板と同じトウヒ材(ヨーロッパスプルース)と赤ブナ材を使用しています。拡大写真の、上下の濃い部分がブナ、中の白い部分がスプルースで、赤ブナ材でスプルースをサンドすることによって木のゆがみを最小限に抑えています。棚板にも、グランドピアノ同様にこだわり、微妙なタッチの違いに敏感に反応します。鍵盤を弾いたときに、指先に振動を感じることができるのはそのような理由からです。



棚板全体図



棚板断面拡大図

鉄 骨

高音部のフレームを厚くしてあります。これはベヒシュタイングループだけの工夫で、支柱同様、構造上並びに音響上の理由からです。ここにもベヒシュタインのアップライトピアノの製造技術がツインマーマンにそのまま生かされています。

